

第50期 中間報告書



2016年4月1日から2016年9月30日まで



株式会社 鶴 弥

—日本のすべての屋根に防災瓦を—

経営に関するQ&A

〈経営理念〉

強く美しく、取り扱いはやさしく、
値打ちも、より安全な、
屋根材を提供する。



代表取締役社長 鶴見 哲

◆鶴弥の現状と今後の課題、その対策についてお聞かせ下さい。

2017年3月期第2四半期累計期間における当社を取り巻く経営環境としましては、政府と日銀による金融緩和等の施策によって、全般的な国内景気としては緩やかな回復基調が継続したものの、世界経済、特にアジア新興国経済における先行き不透明感の影響を受け、依然として油断のできない状況にあると認識しております。

住宅市場においては、景気動向と比べ、消費者の所得環境の改善が遅れていることに加え、消費税増税の延期が決定したことで、持家着工戸数は依然として低い水準に抑制されたものの、総数としては前年同期比でプラスに転じる結果となりました。しかし、その一方で、消費税増税延期によって一部の継続中であった商談が長期化するとともに、所得環境の先行きに不透明感があることから、住宅需要の動向は今後も不安定な要素を含んでおります。

そのような状況下、当社としましては、この機を企業体質の強化によって他社との差別化を図る契機と捉え、中期経営計画「Try-130」(2014年3月期～2018年3月期)の4年目として、昨年度から実施した新たな営業体制による、地域ビルダーや工務店へのPR活動、大規模ビルダーやハウスメーカーへの継続した営業活動を推進いたしました。また、生産体制につきましては、生産効率向上への取り組みを続ける一方で、過剰在庫を抑制するためにきめ細やかな生産及び在庫計画の立案、実施を行い、その見直しを図ってまいりました。

その結果、売上高、利益面におきまして増収増益といった業績になりましたが、需要動向は楽観視できない状況であり、この業績に慢心することなく、中期経営計画の主要なテーマである「市場に左右されない業績を作る体制づくり」への取り組みを今後より一層加速してまいり所存であります。さらに、新たな事業であります陶板壁材「スーパートライ Wall」につきましては、この度、2016年度グッドデザイン賞を受賞するなど、その意匠性について外部より評価をいただきました。今後、この評価を励みに、販売先に対してより具体的な営業活動を推進してまいります。

◆鶴弥の社会的責任についてお聞かせ下さい。

企業は、市民としての事業活動を通じて社会との協調のもとで持続的に発展し、同時にそうした事業活動が、企業と社会との相乗的な発展に資するとの考え方から、昨今、特に企業の社会的責任に注目が集まっております。

・企業活動における社会貢献について

当社は、国民生活の基盤である「住まい」に関わる企業として、安心・安全な製品を皆様にお届けし、その結果として、この日本の文化的景観を守り、「住文化」そのものに貢献することが最も重要な社会的責任であると考えております。

・地震対策について

2016年4月14日から4月16日に発生しました熊本県を中心とした一連の地震に加え、2016年10月21日には鳥取県中部においても大きな地震が発生いたしました。一日も早い復興を祈念するとともに、微力ながら、当該地域の顧客である瓦流通店様、屋根工事業者様をサポートさせて頂く形での復旧活動を進めてまいりたいと存じます。また特に、今回の鳥取県中部地震では、耐震工法である「ガイドライン工法」で施工された住宅では屋根被害が少ないことが報じられるなど、これまで粘土瓦及び屋根工事の業界内で蓄積された経験と、それを生かして長年取り組んできた対策の効果が広く認められることとなりました。

さらに、当社の主力製品「スーパートライ110シリーズ」は過去の災害を教訓に開発した「防災瓦」であり、これまでも各種性能試験や実際の災害でその効果を発揮してまいりました。当社は、今後も継続してこの防災瓦の啓蒙、普及活動を進めることで、災害に強い安心・安全な日本の住文化形成に資することができると考え、「日本のすべての屋根に防災瓦を」をキーワードに、一層の営業活動強化、認知度向上を図ってまいります。

・環境対策について

粘土瓦製造業は、天然素材の粘土や釉薬を主原料とし、元来自然環境との関係性が深い業種であります。よって、当社は、環境対策を進めることが企業としての重要な社会的責任のひとつであると考え、従来から、生産活動における省エネ推進等の環境負荷の低減を行ってまいりました。

今後も当社は、事業活動そのものの環境負荷の低減を図るとともに、環境面に配慮した製品開発とその普及に努めてまいります。



2016年度グッドデザイン賞を受賞した
陶板壁材「スーパートライ Wall」施工物件外観



新たに作成した防災瓦PRパンフレット

トピックス

1. 陶板壁材「スーパートライ Wall」が2016年度グッドデザイン賞を受賞しました

当社の陶板壁材「スーパートライ Wall」が、2016年度グッドデザイン賞の「住宅設備部門」において、グッドデザイン賞を受賞しました。

グッドデザイン賞とは



**GOOD DESIGN
AWARD 2016**

▲Gマーク

1957年に通商産業省(現経済産業省)によって創設された「グッドデザイン商品選定制度(通称Gマーク制度)」を継承し、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「総合的なデザインの推奨制度」です。

「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的としています。

また、グッドデザイン賞を受賞したデザインには「Gマーク」をつけることが認められます。

グッドデザイン賞審査委員評価コメントは下記のとおりです。

焼き物が持つ自然な風合いや質感、高耐久性と工業製品としての製品精度の両立がこの壁材の特徴です。焼き物が本来もっている自然な風合いと高級感や、釉薬や焼成方法の変化による多彩な色彩や意匠は、近年、均一な建物の外壁が多い中、その試みにとても意義があると考えられます。

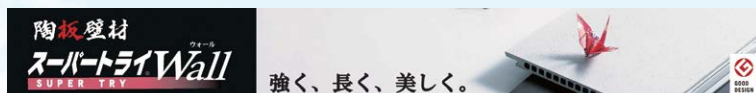


「スーパートライ Wall」の概要

陶板壁材「スーパートライ Wall」は、日本の住宅の屋根を長年に亘って守ってきた粘土瓦の優れた特性をそのまま活かし、屋根だけでなく建物外装全体の長寿命化に貢献すべく開発しました。一般的な窯業系外壁材が持つ省施工性とタイルが持つ高耐久性とを併せ持つ、全く新しい壁材です。

また、焼き物が本来もっている自然な風合いと高級感や釉薬(うわぐすり)や焼成方法の変化による多彩な色彩や意匠、質感は外装のみならず、内装としても贅沢な空間を演出できます。

2.「スーパートライ Wall」製品紹介



いつまでも愛せる高い耐久性

釉薬(うわぐすり)を塗り、1,130℃でしっかり焼き締めることで高い耐久性を実現しました。

夏の日差しや冬の寒さに強く、いつまでも変わらない住まいを実現します。

■耐凍害性試験結果

(-20℃と30℃の凍結・融解を1サイクルとした試験)

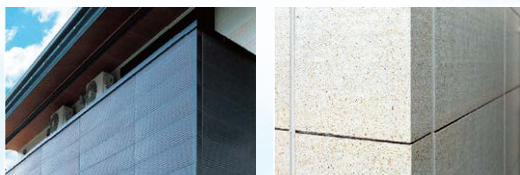


いつまでも美しく、安心の20年保証

陶板壁材本体及び同質出隅の著しい変褪色(沖縄除く。)

一般的なサイディングの塗装とは違い、釉薬(うわぐすり)を焼きつけることで発色させています。

釉薬は焼きつけることでガラス質になり表面を保護するため、スーパートライ Wallは20年の長期保証を実現しています。



美しさ長持ち、塗り替えコストが不要

紫外線や酸性雨などによる色落ちや劣化が起こりにくく、時がたっても新築時のままの外観を保ちます。一般的なサイディングと違い、塗り替えコストが不要です。

■一般的なサイディングとの塗り替えコスト比較^{※1}

※1 外壁面積：約150㎡の概算コスト



※2 専門業者による定期点検を10年に1回程度を目安として実施するようにお願いします。定期点検により、壁材やシーリングに傷みがみられた場合は、状況に応じて補修又は、次回点検時に補修するなど判断をしてください。

経営成績に関する定性的情報（自 2016年4月1日 至 2016年9月30日）

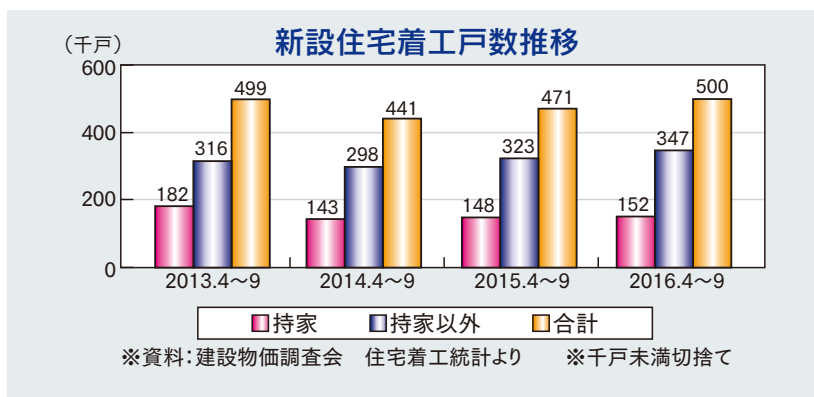
当第2四半期累計期間における国内経済全体は、政府の経済政策等により緩やかな回復基調が続いているものの、一方で、消費税増税延期の影響や、アジア新興国経済の減速などによる景気下押し懸念も生じており、先行きの不透明な景況にあります。

一方で、当業界におきましては、マイナス金利の影響による住宅ローン金利低下に加え、住宅取得における税制特例などの政策により、持家着工が前年対比でプラスとなるなど、一定の回復が期待される結果となりましたが、経済動向の先行き不透明感もあり、引き続き注視が必要な状況であります。

このような経営環境のもと、地域ビルダー及び工務店へのきめ細やかな営業活動を推進した結果、売上高につきましては、前年同四半期比8.0%増の4,696百万円となりました。また、これら営業活動によって得られた顧客ニーズに対応するため、2016年11月1日より、主力製品である防災瓦「スーパートライ110スマート」の仕様変更とカラーバリエーションの追加を行い、一層の販売活動の拡大を目指しております。

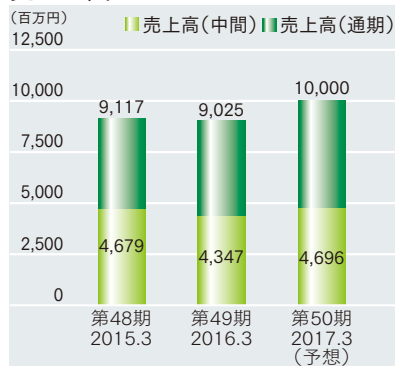
損益面につきましては、引き続き需要に見合った工場稼働を推進し、コスト削減及び歩留りの改善といった地道な自助努力が収益向上につながり、売上原価率は、前年同四半期比2.9ポイント減の71.4%となり、売上総利益金額は前年同四半期20.4%増の1,344百万円となりました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高4,696百万円（前年同四半期比8.0%増）、営業利益322百万円（前年同四半期比64.2%増）、経常利益318百万円（前年同四半期比83.6%増）、四半期純利益217百万円（前年同四半期比128.7%増）の増収増益となりました。

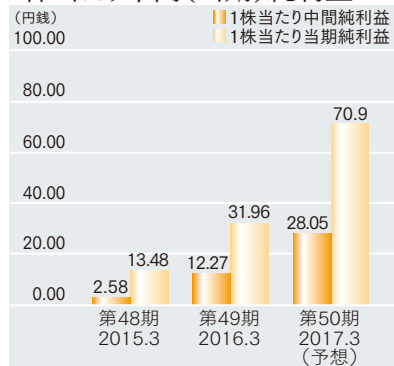


財務データ

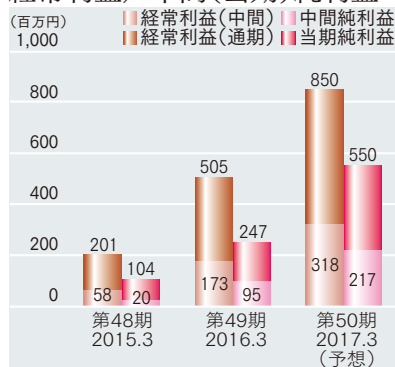
売上高



1株当たり中間(当期)純利益



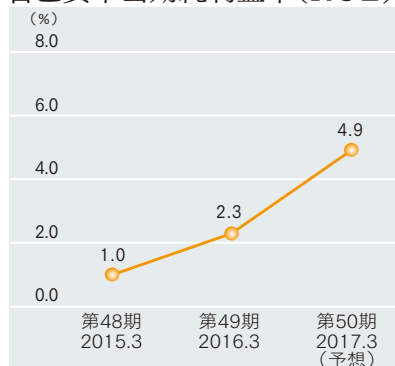
経常利益／中間(当期)純利益



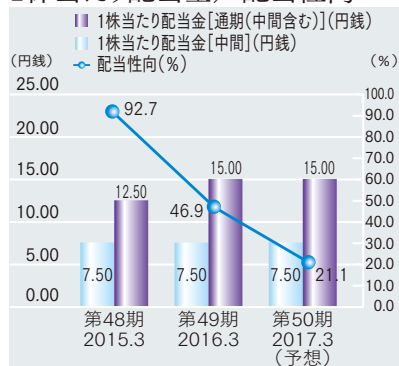
総資産／純資産



自己資本当期純利益率(ROE)



1株当たり配当金／配当性向



四半期貸借対照表

(単位：千円)

期 別 科 目	前事業年度 (2016年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2016年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,376,787	1,770,186
受取手形及び売掛金	2,261,089	2,134,916
商品及び製品	1,196,833	919,763
仕掛品	52,873	51,091
原材料及び貯蔵品	143,162	134,876
その他	131,880	117,395
貸倒引当金	△5,151	△5,120
流動資産合計	5,157,476	5,123,108
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,406,241	1,366,662
土地	9,113,158	9,113,158
その他(純額)	1,099,979	1,037,542
有形固定資産合計	11,619,379	11,517,363
無形固定資産	43,426	44,187
投資その他の資産		
投資有価証券	445,163	415,139
その他	141,255	145,919
貸倒引当金	△609	△587
投資その他の資産合計	585,809	560,471
固定資産合計	12,248,615	12,122,023
資産合計	17,406,091	17,245,131

(単位：千円)

期 別 科 目	前事業年度 (2016年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2016年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	577,563	514,845
電子記録債務	571,882	583,512
短期借入金	2,200,000	2,200,000
1年内返済予定の長期借入金	400,000	400,000
未払法人税等	220,065	129,205
賞与引当金	223,980	230,268
その他	456,094	494,938
流動負債合計	4,649,586	4,552,769
固定負債		
長期借入金	1,225,000	1,025,000
退職給付引当金	83,039	88,474
役員退職慰労引当金	281,805	284,674
その他	81,179	69,744
固定負債合計	1,671,023	1,467,892
負債合計	6,320,609	6,020,662
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,144,134	2,144,134
資本剰余金	2,967,191	2,967,191
利益剰余金	5,802,861	5,962,254
自己株式	△5,813	△5,813
株主資本合計	10,908,374	11,067,767
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	177,107	156,701
評価・換算差額等合計	177,107	156,701
純資産合計	11,085,481	11,224,469
負債純資産合計	17,406,091	17,245,131

四半期損益計算書

(単位：千円)

期 別 科 目	前第2四半期累計期間 〔自2015年4月1日 至2015年9月30日〕	当第2四半期累計期間 〔自2016年4月1日 至2016年9月30日〕
売上高	4,347,982	4,696,818
売上原価	3,231,676	3,352,493
売上総利益	1,116,305	1,344,324
販売費及び一般管理費	920,151	1,022,317
営業利益	196,154	322,007
営業外収益		
受取利息	246	26
受取配当金	5,289	6,091
売電収入	6,932	6,809
その他	8,537	9,896
営業外収益合計	21,006	22,824
営業外費用		
支払利息	19,204	14,918
手形売却損	2,964	700
工場休止に伴う諸費用	16,568	6,646
その他	4,736	3,611
営業外費用合計	43,474	25,877
経常利益	173,686	318,955
特別損失		
固定資産売却損	14,088	—
特別損失合計	14,088	—
税引前四半期純利益	159,597	318,955
法人税、住民税及び事業税	90,661	101,706
法人税等調整額	△26,211	△324
法人税等合計	64,449	101,382
四半期純利益	95,148	217,572

会社の概要 (2016年9月30日現在)

商 号 株式会社 鶴弥
T S U R U Y A C O . , L T D .

本 社 愛知県半田市市の崎町2番地12
T E L (0569)29-7311(代表)

設 立 1968年2月

事 業 内 容 1.粘土瓦の製造および販売
2.屋根工事の請負および施工
3.陶板壁材の製造および販売
4.建築資材の開発および販売
5.前各号に付帯関連する一切の事業

資 本 金 21億4,413万円

従 業 員 数 432名

役 員 (2016年9月30日現在)

代表取締役社長	鶴 見 哲
常 務 取 締 役	山 内 浩 一
常 務 取 締 役	榎 本 守
取 締 役	榎 尾 清 勇
取 締 役	三 井 真 司
取 締 役	高 垣 俊 壽
常 勤 監 査 役	稲 田 康 孝
監 査 役	鶴 見 秀 夫
監 査 役	高 須 光

(注1)取締役高垣俊壽氏は、社外取締役であります。

(注2)監査役稲田康孝氏及び鶴見秀夫氏は社外監査役であります。

株式の状況 (2016年9月30日現在)

○株式数及び株主数

発行可能株式総数 25,000,000株

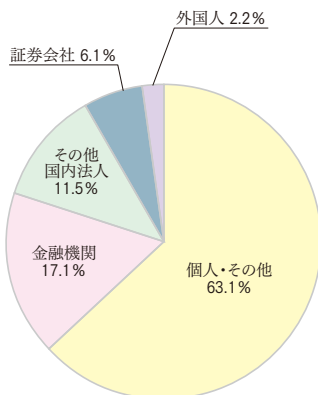
発行済株式の総数 7,767,800株

单元株式数 100株

当中間期末の株主数 2,321名

自己株式の保有数 10,498株

○所有者別分布状況



○大株主 (上位12名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
鶴 見 哲	1,551	19.9
有限会社トライ	595	7.6
株式会社みずほ銀行	310	3.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	308	3.9
株式会社商工組合中央金庫	308	3.9
株式会社SBI証券	225	2.9
鶴 見 綾 子	221	2.8
柴 谷 ハ ッ ノ	150	1.9
遠 山 和 子	140	1.8
鶴 見 日 出 雄	132	1.7
岡 崎 信 用 金 庫	132	1.7
細 井 芳 美	132	1.7

(注) 持株比率は、自己株式(10,498株)を控除して計算しております。

事業所

本社及び本社工場	〒475-8528	愛知県半田市州の崎町2番地12
西尾工場	〒444-0325	愛知県西尾市楠村町南浜屋敷16番地1
衣浦工場	〒475-0032	愛知県半田市潮干町1番地1
阿久比工場	〒470-2215	愛知県知多郡阿久比町大字矢高字西の台1番地1
北陸支店	〒932-0136	富山県小矢部市平田3102番地
仙台営業所	〒983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野五丁目3番地の35

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
公告掲載方法	当社のホームページに掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
公告のホームページアドレス	http://www.try110.com
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL (0120) 782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。

※確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。